

# 働かざる者 食うべからず

消耗の「労働」から、循環の「ハタラキ」へ



ハタラキとは何かを問う — TAOISM —

# 働かざる者 食うべからず

強く、厳しく、時に冷たく聞こえる言葉。

しかし、その本質はもっと深い。

働かざる者は、食うべからず。

働かざる者は、遊ぶべからず。

さらに言えば——

働かざる者は、生きるべからず。

ここで言う「働く」とは何か？

## 従来の「働く」

- × ただ時間を使うこと
- × ただ労力をかけること
- × 儲けること・稼ぐこと

## TAOISMの「ハタラキ」

- 人の為になること
- ヒトの為に成ること

儲かる。稼げる。  
それは「結果」であり、「目的」ではない。

**軸**

**働く**

**ハタラキ**

**概念**

**消耗**

**循環**

**焦点**

**自分の時間と利益**

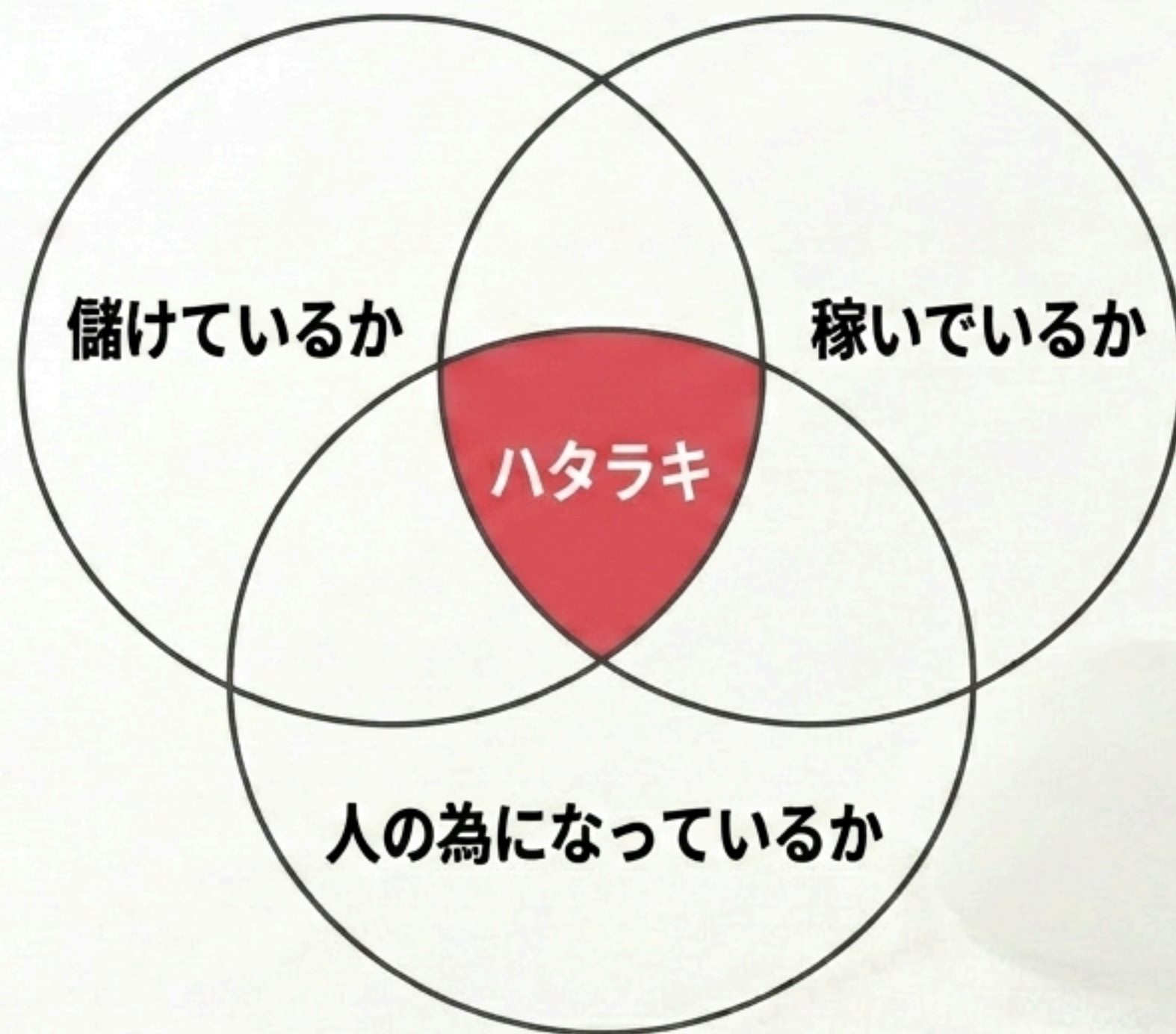
**他者の課題解決**

**評価基準**

**感情・努力・頑張り**

**現実・届いた価値**

**一生懸命働いているかどうかは関係ない。  
感情論ではなく、これは純然たる「構造」である。**

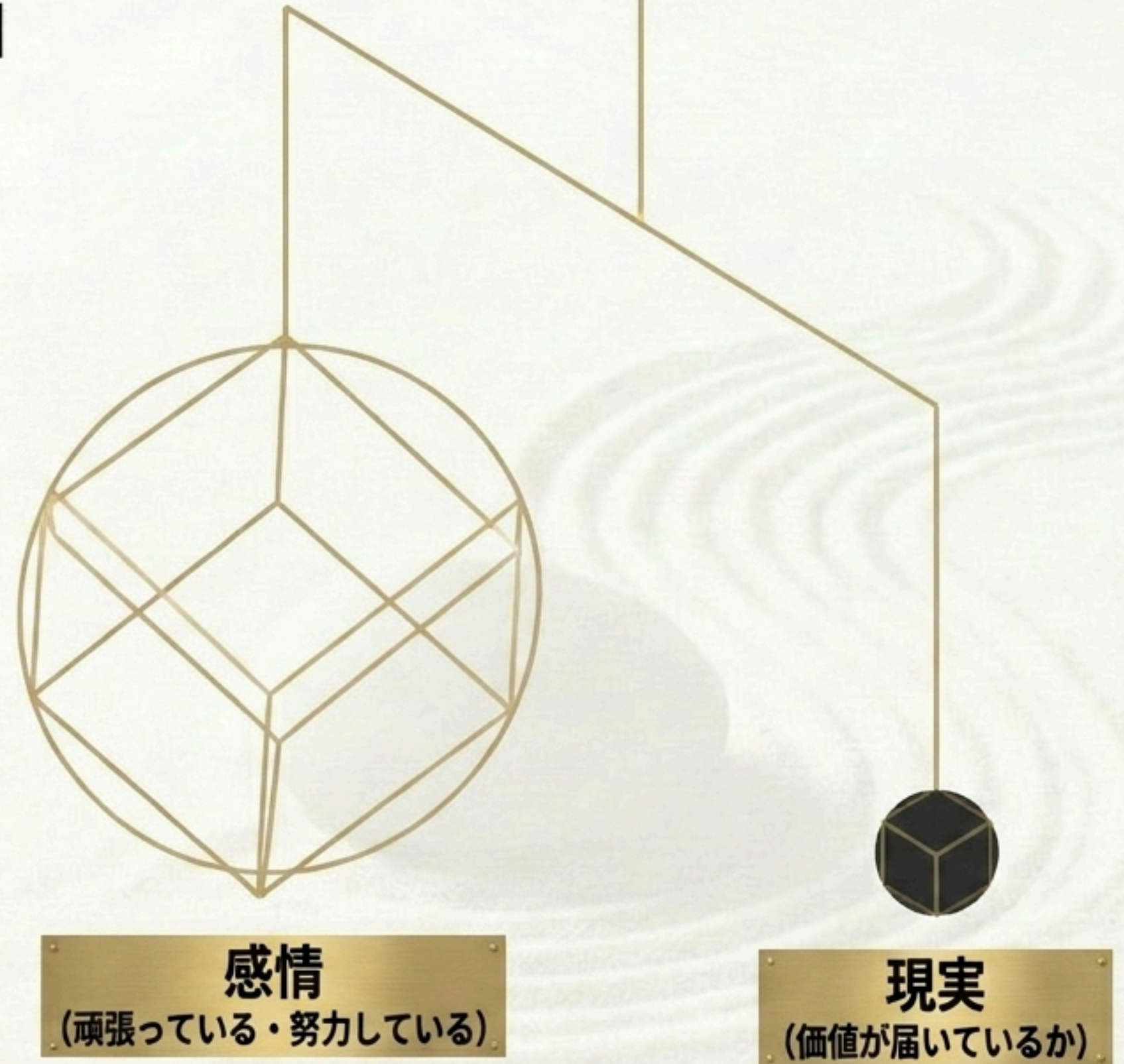


**この三つが揃っていないならば、ハタラキではない。  
感情論ではなく、構造である。**

# TAOISMの掟：「現実で測る」

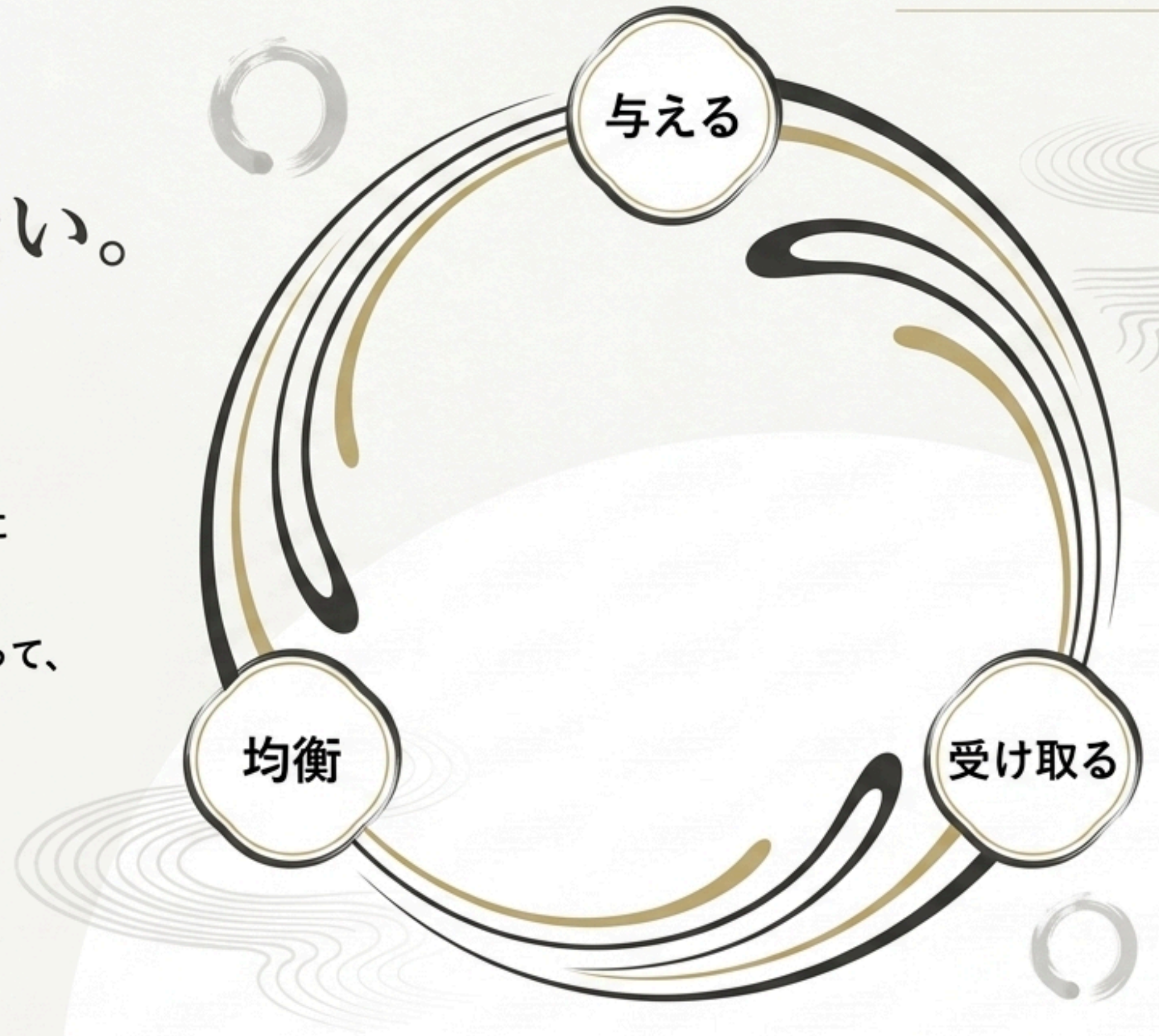
- 努力している、頑張っている。  
それだけでは不十分。
- 自分は働いている「つもり」になっていないか？
- 価値ではなく、感情で判断していないか？

ここを曖昧にすることは、自分にも他者にも嘘をつくことになる。現実にはシンプルだ。価値が届いているかどうか。



# 働くとは消耗ではない。 循環である。

一人で生きている人はいない。社会は相互依存。  
食事も、住まいも、すべて誰かのハタラキの上に  
成り立っている。  
受け取るだけでは成立しない。与えることによって、  
初めてバランスが取れる。  
これを「共同体の均衡」と呼ぶ。



ハタラキがない者は、食うべきではない。生きるべきではない。しかし逆に言えば――

**ハタラキがある者は、食うべきであり、  
遊ぶべきであり、楽しむべきであり、  
生きるべきであり、喜ぶべき存在である。**

与えている者が、受け取る。ここに自然の循環の美しさがある。





## Step 1: 問いを持つ

自分は何を提供しているか？  
誰の役に立っているか？  
価値は届いているか？



## Step 2: 整える

行動を現実に合わせる。  
成果で確認し、  
ズレを修正する。



## Step 3: 継続する

小さな価値提供を積み重ねる。  
信頼を積み上げる。  
結果で測る。

# TAOISMは「整える」思想である。

ハタラキを整える。価値を整える。循環を整える。

与え、受け取り、また与える。

この流れの中で、人は生かされている。

徳を磨き、自分の役割を果たし、共同体と共に歩むこと。

それが「働く」ということ。

あなたは今、  
どんなハタラキを  
してていますか。